

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>○個々のキャリアの発達を促し、新たな教育課程の編成の検討とともに、実施に向けて履修や選択に役立つ教育計画を生徒に示し、学びやすく、個に応じたオープンなカリキュラムを編成する。</p> <p>○「真の学ぶ力」の伸長のための授業改善に取り組む。</p>	<p>① 新教育課程の年次進行に合わせ、令和の日本型学校教育に基づく学力観を念頭に置いたカリキュラムマネジメントを進める。</p> <p>② ICT機器を効果的に活用した授業改善を行い、生徒が主体的に多様な人々と協働し学修する姿勢を培い、また家庭学習の習慣を根付かせることで、基礎学力定着を図る。</p>	<p>①新教育課程への移行を完成させ、教科・系列と連携して生徒の希望を受け入れられる時間割の作成と適切な履修指導を行う。</p> <p>②ICT機器の効果的な活用方法を職員同士で共有し、授業力を向上させることができるような研修会を実施する。</p>	<p>①・生徒の希望を適切に受け入れられる時間割作成につとめたか。 ・適切な履修指導を進められるよう、各年次に丁寧な支援を行ったか。</p> <p>②定期的に研修会を実施できたか。研修会の内容は効果的であったか。</p>	<p>①・教科・系列と連携し、効率的な講座配置についての検討を進め、生徒の希望を活かせるような時間割作成に努めた。 ・生徒との面談を積極的に行い、進路の自己実現に向けた授業選択の支援を行った。 ②定期的に研修会を実施し、ICT機器の効果的な活用方法を職員同士で共有することができた。それにより、生徒の実態や興味・関心に基づいて指導方法や教材を開発するなど、ICT機器の活用が促進された。</p>	<p>①令和6年度に新学習指導要領に基づいた教育課程が完成することで、生徒の希望がより一層受け入れられるよう関係部署と連携して、時間割の作成や科目選択の履修指導につとめていく必要がある。 ②ICT機器の活用について、更なる底上げを図っていききたい。また、生徒の家庭学習を習慣づけたり、生徒の意見発表や研究発表の機会を増やしたりするとともに、ペアワークやグループワークなどによって他者の考えを知り、自らの考えを深める学習をすることが必要であると考えられる。</p>	<p>①多様な生徒に対する学習指導、及び進路の自己実現に向けた授業選択の支援について、成果が得られている。今後、教員が、日々変化する社会のニーズを意識し授業選択を支援するとよい。また、授業選択の際、「将来の自分、なりたい自分」の視点で履修指導を行うことが有効である。 ②・ICT機器の活用に向けて、教員側のスキルを向上させるため、研修等の時間を確保するなど、取組を充実させるべき。また、動画教材を活用した反転学習に、より一層積極的に取り組むことを期待する。 ・1人1台PCの全面導入ができていない中、生徒個人のスマートフォンを活用した授業は、現状に即した活用事例であった。授業での活用を通じて、スマートフォンの安全な利活用を学ぶ契機にもなる。</p>	<p>①生徒の希望を可能な限り活かして時間割作成を行い、生徒の進路実現に向け支援を行ったが、授業教室の数や、体育館の耐震工事などの影響で不可能な部分もあった。 ②定期的に研修会を実施し、また校内のWiFiのアクセスポイントを倍増させたことによって1人1台端末を授業その他で効果的に活用できる環境づくりを進めることができた。</p>	<p>①令和6年度には1～3年次の教育課程が揃い、また体育館の耐震工事も終了するため、系列科目の見直しを行った教育課程の成果が明らかになると期待される。 ②校内のWiFiのアクセスポイントは改善したが、もともとの回線が十分な環境とは言えず、ガイダンス等で多くの生徒が同時使用可能な環境整備を進めてほしい。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>○生徒の主体的な活動による学校行事や生徒会活動等を通し、生徒がお互いを尊重し、協働する姿勢を身に付けさせて、リーダー性を育てる。</p> <p>○生徒の多様性を踏まえた支援体制の充実を図り、併せて、規範意識を高め、SDGsを活用し、本校生徒としての意識を高める。</p>	<p>① withコロナの時代に合わせ、学校行事、部活動などの活動内容を精選・改善し、生徒の主体性・リーダーシップを醸成し、社会で『生きる力』を身に付けさせる。</p> <p>② 支援を必要とする生徒に寄せた教育相談体制を確立し、日常生活指導を通じて、生徒の規範意識の向上をはかる。また、授業やHR活動等を通じ、SDGsの視点から生徒の意識を高めていく。</p>	<p>①学校行事や部活動などの活動内容をさらに見直し、生徒が主体となり、運営する体制を整える。また、生徒のリーダーシップを醸成する機会をつくり、「生きる力」を身に付けさせる。</p> <p>②共通認識を持った教育相談体制の確立とあいさつ運動や交通安全指導を通じて日常生活指導を行い、規範意識を身につけさせる。</p>	<p>①学校行事や部活動において生徒主体の運営体制をつくることができたか。各方面で生徒がリーダーシップを発揮できていたか。</p> <p>②基本的生活習慣が確立されたか。充実した教育相談が行われたか。</p>	<p>①部活動や学校行事において、初めは受け身だった生徒たちが活動を重ねるうちに徐々に自ら動くようになるようになっていった。特に3年次生は、リーダーシップを発揮し学校行事を企画運営し、学校全体を活性化させた。</p> <p>②年次を中心に教育相談が活発に展開された。また、定期的にあいさつ運動・交通安全指導を実施し、生徒に規範意識を持たせることができた。</p>	<p>①引き続き、生徒主体の運営体制を整えながら、生徒がリーダーシップを発揮できる環境を整えていく。</p> <p>②・共通認識を持った指導体制の確立が必要である。 ・日常生活から規範意識を身につけるための、卒業後を見据えた継続的な指導をおこなう必要がある。</p>	<p>①部活動、学校行事が活発におこなわれ、生徒が伸び伸びと学校生活を送り、成果が得られた様子である。引き続き生徒がリーダーシップを発揮できるよう取組を進めてほしい。進学や就職の際、部活動や学校行事に主体的に取り組んだ経験は、自己PRの貴重な材料となる。そのような先々のメリットも提示して「部活動や学校行事に積極的に参加するのは普通だ」という機運を入学直後から醸成していくとよい。 ②教育相談体制がうまく機能しており、良い成果が得られている。生徒の実態に寄り添い、多様性と一人一人の人格を認め合うという事を根本にして取り組むことが大切である。 ・学校を訪問した際、生徒が挨拶をしてくれた。心温まる思いをするとともに、規範意識の向上が窺えた。基本的生活習慣は卒業後の生活でも基礎となるため、改善への取組を続けてほしい。</p>	<p>①部活動や学校行事において、新型コロナウイルス感染症の影響が減り、生徒がリーダーシップを発揮し自発的に活動し始めているが、コロナ禍で以前の活動が継承できていない部分も多い。 ②教育相談や生徒の規範意識向上に向けた指導などは的確・効果的に実施されていた。</p>	<p>①コロナ禍でのマイナス部分を問題にせず、新たに部活動や学校行事を作り上げていく意識を生徒・教員・保護者が共に持ち、活動を進めていくことが肝要であると思われる。 ②生活指導上の問題は多くなかったものの、日常の挨拶や登下校マナー等は指導を継続していく必要性を感じるため、職員の共通認識醸成が重要になってくる。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>○総合学科のガイダンス機能を活用し、生徒の主体的な進路選択を支援・指導できる進路指導体制の充実を図る。</p> <p>○学校外の教育力を活用して「課題解決能力」や「コミュニケーション」を育み、キャリア発達を促す。</p>	<p>①ガイダンスの授業を中心に、個に応じたキャリア教育を行い、将来の職業観を構築すると共に、上級学校で学習できる進路支援・指導を展開する。</p> <p>②総合学科高校の強みを活かし、校外でも学習する力を育成し、高校卒業後の目標設定・達成に向けた意識づくりの機会を設ける。</p>	<p>①ガイダンスの授業で職業観や自己実現あるいは進路選択を支援するプログラムを計画する。</p> <p>②他の総合学科高校や上級学校と連携して、学校外で学ぶことができる機会を生徒に提供する。</p> <p>③生徒一人ひとりが主体的に進路選択を行うことができるように、生徒の個性に応じた進路指導や進路相談を実施する。</p>	<p>①生徒のニーズに応じたプログラムを実施し、自己理解や進路選択を支援できたか。</p> <p>②学校外での学びについて生徒に周知し、講座の受講等につなげることができたか。</p> <p>③履修や進路について個々に適した十分な相談の機会を設けたか。生徒のニーズに応えた指導ができたか。</p>	<p>①・例年のプログラムに加え、上級学校と職業人を結びつけたプログラムを実施した。また、ガイダンスⅠからⅢでの取り組み、及び課題研究の成果が、生徒の職業観の形成や自己実現、進路選択に大きな影響を与えた。</p> <p>②・上級学校や企業と連携した新たなプロジェクトを計画実践した。また、夏の学びや、上級学校との連携事業を通じて、多くの生徒を学校外の学びに繋げることができた。</p> <p>③履修や進路について説明会を開き丁寧に説明を行った。その上で、生徒一人ひとりと面談を行い、生徒の進路希望を実現できるよう支援した。</p>	<p>①1年間を見通して授業計画を立て、各プログラムを計画的に実施していく必要がある。</p> <p>②コロナによる講座数や受講定員数の減少により、生徒が必ずしも希望の講座を受けられない状況があった。学校外での学びの機会を確保するため、引き続き、他の総合学科高校や上級学校との連携を図っていく。</p> <p>③3年次になっても進路決定がなかなかできずに進路準備が遅れる生徒の支援が課題である。進路指導の柱であるガイダンスを活かして一人ひとりの進路実現に向けた指導を継続していく。</p>	<p>①・上級学校と職業人・企業との新たなプログラムが実施されたことは、画期的なことと評価したい。また、上級学校との接続は、職業観や進路選択を支援するだけでなく、思考力、プレゼンテーション能力、ディスカッションスキル等を高める機会にもなる。今後も、引き続き取り組むと良い。</p> <p>・3年次生が下級生に、自身の進路選択の体験を伝える機会を設けてはどうか。</p> <p>②コロナ禍での制限の中でも生徒一人ひとりのニーズに合わせた策が講じられ、またそれが浸透しており、成果が得られている。今後も生徒のニーズを踏まえ、関係各所との連携などの取り組みを一層充実させ、生徒一人ひとりに寄り添う指導を期待したい。</p>	<p>①・学校関係者からも評価されたように、上級学校と職業人・企業との新たなプログラムが実施できたことは大きな成果である。来年度以降、さらに多くの生徒が参加できるプログラムに拡大していきたい。</p> <p>②進路準備が遅れる生徒の支援では、総合学科の特徴であるガイダンスを活かした指導が十分な部分があることが課題である。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の影響でガイダンスの授業内容で変更や縮小せざるを得ない部分があっただけに、ポストコロナに向け拡充を図りたい。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域や保護者との連携を推進し、開かれた学校づくりを進め、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動を推進する。</p> <p>○防災意識を高め、本校のSDGs(防災)の体制づくりに取り組む。</p>	<p>①HPの拡充等を通じ本校の教育活動を随時発信し、広報活動を充実させることで地域連携、学校間連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②防災意識を高める目的で訓練を計画・実施し、また地域との防災連携を強化する。</p>	<p>①学校説明会や中学校訪問、文化祭やオープンスクールなどを通じて充実した広報活動を実施し、ホームページや掲示板の内容を充実させる。</p> <p>②防災計画の具体化、防災訓練の実施等で防災意識を高める。また、地域との防災連携を拡充させる。</p>	<p>①来校者数や来校時のアンケート結果の集約、ホームページの内容更新の状況。</p> <p>②防災計画の具体化や更新状況。備蓄品の補充。防災訓練の実施状況。防災に関わる地域との連携状況。</p>	<p>①・ホームページを活用し充実した広報活動を行うことができた。</p> <p>・定期的に学校運営協議会を開催し、委員の方々と意見を交換することができた。コロナの影響で停止していた地域との連携も、少しずつではあるが再開することができた。</p> <p>②防災に備えたマニュアルの確認や、防災意識を高めるための防災訓練を実施することができた。また、災害に備え備蓄品の補充をおこなった。</p>	<p>①・学校活動の成果をアピールするため、情報発信の更新や幅広い発信を継続していく。</p> <p>・学校運営協議会委員の助言を学校運営に生かしていく。また、地域の方々に実際に校内の様子を見ていただく機会を増やしていく。</p> <p>②防災に対する意識をより高め、新たな災害に備えた計画を具体化する必要がある。また地域との連携を図ることの不測の事態に備える必要がある。</p>	<p>①・ホームページを活用し充実した広報活動が出来たことは評価したい。今後も地域や他の学校との連携強化のために、幅広い情報発信を期待する。</p> <p>・学校運営協議会各委員の得意分野に関しては、運営そのものへの協力をお願いしたらよい。</p> <p>・地域交流機会の回復が望まれる。ダンス部の全国制覇は素晴らしい。並木のサマーフェスタで披露してもらいたい。</p> <p>②防災訓練は、南海トラフ巨大地震等、具体的な事象に目を向け実施できるのではないかと実践力の向上と地域との連携強化を図り、防災力全般の向上を望む。</p>	<p>①・学校説明会、公私合同説明会など広報活動は充実させることができたが、地域との連携はコロナ禍で停滞したままである。</p> <p>②防災訓練は定期的に実施できたものの、全体で集合することを回避したため、その効果は限定的であった。</p> <p>③東日本大震災の記憶が薄れていく中、地域社会と連携して防災訓練などを効果的に計画・実施していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○安全・安心な学校づくりを推進する。</p> <p>○総合学科として、社会の変化に迅速に対応できる学校運営組織の構築に取り組む。</p>	<p>①全職員が積極的に取組めるよう研修会の充実を図り、不祥事を未然に防ぐ体制づくりに努める。</p> <p>②Teams等の効果的な活用や業務の見直しから働き方改革を進め、生徒に寄り添う時間を増やすべく業務のスリム化を推進する。</p>	<p>①私費執行に関する研修会の実施。</p> <p>①不祥事ゼロプログラムを定め、事故防止に向けた啓発活動をおこなう。</p> <p>②職員への情報の伝達等の、データでの配信をすすめ、データでの管理を行い、情報を整理し、共有化することにより、業務と時間を効率化する。</p>	<p>①私費執行に関する事故・不祥事の未然防止に取り組む意識が向上し実行できたか。</p> <p>①定期的に研修の機会を設け、職員の意識を向上させることができたか。</p> <p>②職員一人ひとりの勤務時間が適正化されたか。(勤務時間管理システムの有効活用で把握する。)</p>	<p>①私費の執行や事故防止の関する研修会を行うスムーズに取り組むことができた。</p> <p>①年度初めに不祥事ゼロプログラムを定め、月1回定期的に研修をおこない、事故防止に対する職員の意識を向上させることができた。</p> <p>②学校説明会等の参加申し込み電子申請システムを活用するなど、効率よく業務を行うことができた。</p>	<p>①定期的に私費執行に関する事故防止等の研修会を計画するなど、引き続き、事故防止に向けた啓発活動をおこなう必要がある。</p> <p>②Teams等の活用により、打合せ時間が短縮され、拡大時差出勤がしやすい環境も作られている。今後も更に、勤務時間の適正化に努めたい。</p>	<p>①研修は定期的に反復して行うことが大切である。県がサポートする体制が必要だと思う。</p> <p>②・勤務時間・体系に関しては更なる改革が必要である。教職員がコア業務に集中するためにも、校内のWi-Fi環境を改善し、業務のIT化、効率化を推進していく必要がある。</p> <p>③Teamsや電子申請システム等の活用により、業務のスリム化は進んだが、今後効果的な業務改善を図る。</p>	<p>①研修会を行うことが目的ではなく、事故不祥事を起こさないことこそ重要であることを認識していくことが必要である。</p> <p>②他校の実例なども参考にし、働き方改革を進め、魅力的な職場づくりを念頭に業務の見直しを進める。</p>

